

原因究明へ議論開始

自民小委年内に報告書

東京電力福島第1原発事故の原因を調べる自民党の小委員会は27日、党本部で会合を開き、原因究明に向けた議論を始めた。小委員長の村上誠一郎氏(衆院愛媛2区)は、関係者から事情聴取を重ね、年内に報告書をま

とめたいとしている。村上氏はあいさつで「事故から2年たったが、原因解明は完全ではない。政権としてきちんとは検証しなければならぬ」と強調。国会事故調査委員会元委員長黒川清氏からヒアリングした。

国会事故調が昨年7月公表した報告書では、事故の直接的原因を「地震による重要機器の損傷がないと確定的には言えない」と指摘した。この点を村上氏が問うと、黒川氏は「少なくとも複数の間接的証拠では、津波が来る前に完全な全交流電源喪失状態になっていた。津波だけが原因というのは極めて無責任」と主張した。